

17年度 市民意識調査の結果概要

その2

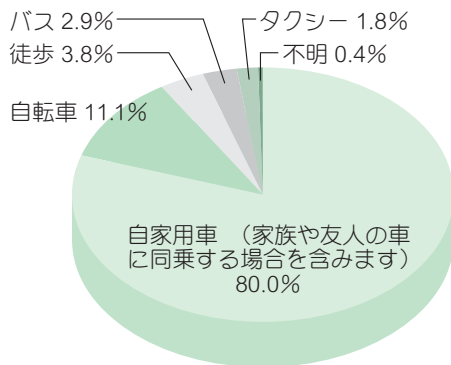
前回に引き続き、市民意識調査の結果を公表します。

今回は、「公共交通」、「循環型社会」、「風の松原の利用」についてです。

調査対象：満18歳以上の男女1,000人
 抽出方法：住民基本台帳から年代別無作為抽出
 調査方法：郵送による回答方式
 調査期間：7月8日～7月22日
 回収率：44.8%（448人）

公共交通について

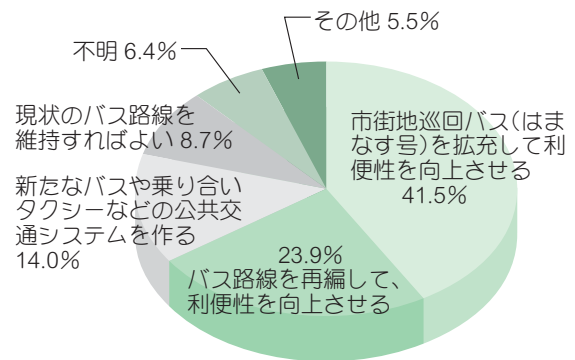
○買い物や通院などで外出（市内の移動）するとき、主にどのような交通手段をとりますか？



外出するときの主な交通手段は、大半が自家用車となっています。

市民生活において、自家用車はなくてはならないものになっている一方で、バスなどの公共交通は大変厳しい状況にあることを示しています。

○本市の公共交通を充実させていくためには、どのような取り組みが必要と思いますか？

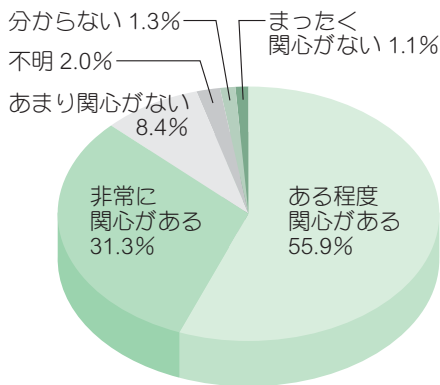


はまなす号の拡充をはじめ、公共交通の利便性向上に対する需要が高くなっています。

高齢化社会や環境問題に対応するためには市民のニーズに沿いながら、暮らしを支える公共交通を充実させていくことが必要になります。

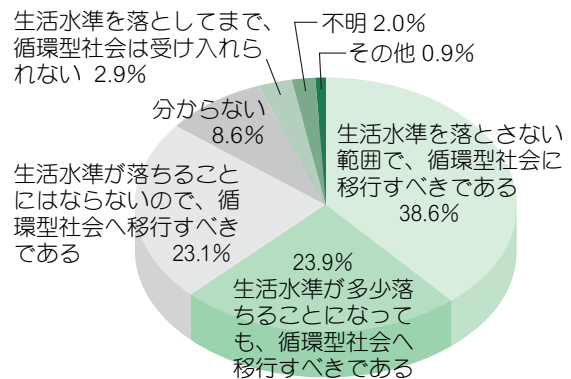
循環型社会について

○ごみ問題にどの程度関心がありますか？



「非常に関心がある」、「ある程度関心がある」の合計は87.2%となっており、市民に身近な問題であると考えられます。年齢が若くなるほど関心の度合いが低くなる傾向があります。また、ごみ問題への関心の高さとごみの減量に向けた行動に関する相関関係は低く、実践することの難しさがあるのではと考えられます。ごみ問題への認識が直接行動に結びつくような、施策を充実させていくことが必要と考えます。

○循環型社会へ移行していくことについて、どう思いますか？



※生活水準=物質的な豊かさや便利さ

「移行すべきである」との回答合計は、85.6%で、ごみ問題への関心がある人の合計と近い数値です。ごみ問題への関心の高い人ほど、「移行すべきである」との回答が高い傾向があります。

※市では、循環型社会の形成について、市民意識調査とは別に独自のアンケートを実施しました。今回の調査も含め、その結果などについて、今後の広報で詳しく掲載する予定です。